

平成 22 (2010) 年度事業報告

I 山岳および登山に関する学術調査および研究について

(定款第 2 章 (目的および事業) 第 4 条第 1 項)

1. 昭和 54 (1979) 年に設立されたヒマラヤ委員会を適宜開催し、崑崙山脈、雲南省、チベット自治区などの中国、ならびにブータンにある高峰への学術登山隊派遣について検討を重ねた。
2. カラコラム、ネパール、中国、ブータン、ヒンズークシおよび南極地域における登山ならびに学術探検に関する研究会を開いた。また、昭和 48 (1973) 年春のネパール・ヤルン・カン峰遠征隊、昭和 49 (1974) 年カラコラム K12 峰遠征隊、昭和 52 (1977) 年ネパール・ランタン谷予備調査隊、昭和 56 (1981) 年チベット高原予備調査隊、昭和 57 (1982) 年チベット高原学術登山隊、昭和 58、59 (1983、1984) 年ブータン・ヒマラヤ予備調査隊、昭和 60 (1985) 年ブータン・ヒマラヤ学術登山隊、および日中友好納木那尼峰合同登山隊、昭和 63 (1988) 年崑崙学術登山隊、平成元 (1989) 年雲南省科学調査隊、ムスターグ・アタ峰医学学術登山隊および第 1 次梅里雪山峰学術登山隊、平成 2 (1990) 年シシャパンマ峰医学学術登山隊、および平成 8 (1996) 年第 3 次梅里雪山峰学術登山隊によってもたらされた各種資料・文献を引き続き調査した。
3. 昭和 48 (1973) 年 4 月 1 日をもって本会内に設立された旧国際登山探検文献センターで収集された登山探検資料を、京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に寄贈し、文献資料目録を編纂するとともに引き続き資料の充実と収集資料の整理を行った。
4. 雲南・チベット地域の総合的研究を目的に平成 16 (2004) 年に設立された雲南懇話会 (代表: 会員 安仁屋政武) の運営に協力した。
5. 第 31 回日本登山医学会学術集会の運営に本会会員が協力した。

II 一般社会に対する健全な登山の指導奨励ならびにこれに必要な研究会、講習会および展覧会等の開催について

(定款第 2 章 (目的および事業) 第 4 条第 2 項)

1. 平成 22 (2010) 年 8 月、京都大学山岳部との共催で夏期登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで開催した。
2. 平成 22 (2010) 年 12 月から平成 23 (2011) 年 1 月まで京都大学山岳部との共催で冬期スキー登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで開催した。
3. 社団法人日本山岳会の理事として会員中山茂樹、関西支部評議員として平井一正、京都支部副支部長として田中昌二郎が同会の運営に協力し、国内外の登山探検の振興に努めた。
4. 社団法人日本山岳協会の国際部海外委員として会員睦好正治が同会の運営に協力し、国外の登山探検の振興に努めた。
5. UIAA (国際山岳連合) の医学委員として会員中島道郎が同会の運営にあたった。

III 国内、国外における登山および探検に対する企画および協力について

(定款第 2 章 (目的および事業) 第 4 条第 3 項)

1. 平成 22 (2010) 年 5 月から 11 月、新潟県妙高市笹ヶ峰において、会員田中二郎、上尾庄一郎、原田道雄、横山宏太郎、原剛、高尾文雄、山田和人、中山茂樹らが京都大学山岳部との共同で同山

岳部の管理する京都大学笹ヶ峰ヒュッテの建物耐久性調査に参加，協力した。

2. 平成 22(2010)年 9 月から 10 月，京都大学山岳部ニレカピーク登山隊に，会員根岸哲生，田中貴，藤竿和彦，荻原宏章が参加，協力した。

IV 山岳登山に関する図書，機関誌などの発行について

(定款第 2 章 (目的および事業) 第 4 条第 4 項)

1. 「平成 21 (2009) 年度事業報告ならびに平成 22 (2010) 年度事業計画」を作成し，会員に配布した。
2. AACK Newsletter 53 号～56 号の編集・発行を行い，会員相互の情報交換を図った。
3. 京都大学ヒマラヤ研究会ならびに総合地球環境学研究所(高所プロジェクト)が発行する「ヒマラヤ学誌」第 11 号の編集・発行に協力し，同誌を本会会員に配布した。
4. AACK 時報第 14 号の編集企画を行った。
5. 本会の公式ウェブサイト (www.aack.or.jp) を運営し，本会の歴史や事業活動および社会的貢献について広く情報公開するとともに，会員および会員外の情報交換の場を提供した。

V 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡ならびに情報の交換について

(定款第 2 章 (目的および事業) 第 4 条第 5 項)

1. 日本・パキスタン合同のサルトロ・カンリ峰遠征隊の成功を契機として続けられているパキスタンの山岳会とくにカラコラムクラブとの交流をさらに深め，もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し，ひいては日本・パキスタン両国の親善に貢献した。
2. 昭和 55 (1980) 年，中国登山協会代表の本会訪問を契機として始まり，カンペンチン峰，ナムナニ峰合同登山隊以降続けられてきた中国登山協会との協力をさらに深め，もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し，ひいては日本・中国両国の親善に貢献した。
3. 昭和 56 (1981) 年に設立された日本ブータン友好協会との交流を通じ，両国の友好を深め，両国登山界の発展に寄与し，ひいては日本・ブータン両国の親善に貢献した。
4. 本会設立当時から続けられているネパール山岳関係者との交流を深め，もって友好関係にある両国山岳界の発展に寄与し，ひいては日本・ネパール両国の親善に貢献した。
5. ヒマラヤンクラブ，ポーランド山岳会，ドイツ山岳会，オーストリア山岳会，英国山岳会，アメリカ山岳会等との交流を深め，これら各国登山関係者との親善に貢献した。
6. 平成 22(2010)年 8 月，会員酒井敏明，岩坪五郎らがノシャック初登頂 50 年を機会にポーランドを訪問し，同国山岳会関係者との交流を深め，もって友好関係にある両国山岳界の発展に寄与し，ひいては日本・ポーランド両国の親善に貢献した。

VI その他前条の目的を達成するために必要な事業について

(定款第 2 章 (目的および事業) 第 4 条第 6 項)

1. 平成 22 (2010) 年 10 月，中国雲南省明永氷河にて，明永村の協力を得て，会員小林尚礼が本会主催の第 2 次梅里雪山峰学術登山隊員の遺品捜索にあたった。